

## 5. 運航用飛行場予報気象通報式 (TAF)

通報型式：

$$\left\{ \begin{array}{l} \text{TAF AMD 又は} \\ \text{TAF COR 又は} \\ \text{TAF} \end{array} \right\} \text{CCCC YYGGggZ} \left\{ \begin{array}{l} \text{NIL} \\ \text{又は} \\ \text{Y}_1\text{Y}_1\text{G}_1\text{G}_1/\text{Y}_2\text{Y}_2\text{G}_2\text{G}_2 \quad \text{ddfffGf}_m\text{f}_m\text{KT} \end{array} \right.$$

$$\left\{ \begin{array}{l} \text{VVVV} \\ \text{又は} \\ \text{CAVOK} \end{array} \right\} \left\{ \begin{array}{l} \text{w' w'} \\ \text{又は} \\ \text{NSW} \end{array} \right\} \left\{ \begin{array}{l} \text{NsNsNshshshs} \\ \text{又は} \\ \text{VVhshshs} \\ \text{又は} \\ \text{NSC} \end{array} \right\} \left\{ \text{TTTTT YYGG/Y}_e\text{Y}_e\text{G}_e\text{G}_e \right\}$$

注：

- (1) **TAF** は、運航用飛行場予報の通報に用いる。
- (2) 識別語 **AMD** は修正，**CNL** は取り消し，**COR** は訂正，**NIL** は予報発表無しの場合に適宜使用する。

規則：

1

通則

1.1

**TAF** は個々の本文の文頭に置く。

1.2

一通以上の **TAF** 報を含む編集報の場合、個々の **TAF** 報を行頭から報ずる。

1.3

予報状態の記述には、少なくとも風、視程、天気及び雲又は鉛直視程に関する情報を含むものとする。

1.4

予報期間は、 $\text{Y}_1\text{Y}_1\text{G}_1\text{G}_1$  から  $\text{Y}_2\text{Y}_2\text{G}_2\text{G}_2$  までとする。

予報期間内に重要な変化が予想される要素がある場合は、変化前の状態を完全に記述した後に1つ又はそれ以上の変化群 **TTTTT YYGG/Y<sub>e</sub>Y<sub>e</sub>G<sub>e</sub>G<sub>e</sub>** を加える。各々の変化群の後に規則 1.5 に従って変化後の要素を報ずる。

注：(1) 変化群を含めるための基準は「航空気象予報業務実施要領」による。

(2) 規則 8.1 参照。

1.5

w'w'群及び/又は NsNsNshshshs, 又は VVhshshs 群に対応する要素がないか又は重要でないと思われる場合、その群は省略する。また、変化群 **TTTTT YYGG/Y<sub>e</sub>Y<sub>e</sub>G<sub>e</sub>G<sub>e</sub>** 群の要素のうち、前の予報値から顕著には変わらないと予想されるものは省略する (規則 5.2, 6.7 及び 6.9 参照)。しかし、雲が重要な変化をする場合は、変化が予想されない他の重要な雲層又は雲塊も含め全ての雲の群を報ずる。

2

CCCC 群—地点略号

2.1

ICAO の国際 4 文字地点略号を使用する（付録 地点略号表参照）。

3

dddffGf<sub>m</sub>f<sub>m</sub>KT 群—風

3.1

予想風の平均風向及び風速を dddff 群で報じ、直後にスペースを置かずに指示文字 **KT** を付加し、風速の単位がノットであることを示す。

3.2

“静穏” は 00000 とし、スペースを置かずに **KT** を付加する。

3.3

風向が定まらず平均風速が 3 ノット未満の場合は、ddd に VRB を報ずる。

風速がこれを上回る場合は、飛行場上空を雷が通過するときのように 1 つの風向を定めることができないときにのみ VRB を報ずる。

3.4

平均風速が 15 ノット以上で、その平均風速を 10 ノット以上上回る最大瞬間風速を予報する場合、最大瞬間風速は dddff 群のすぐ後に続けて、Gf<sub>m</sub>f<sub>m</sub> に報ずる。

注：変化群の後に再び風を報ずる場合、Gf<sub>m</sub>f<sub>m</sub> を報ずるか否かはこの基準による。

3.5

風速が 100 ノット以上の場合、2桁の数字符号 ff 又は f<sub>m</sub>f<sub>m</sub> に代えて P99 を報ずる。

4

VVVV 群—卓越視程

予想される卓越視程を報ずる。

4.1

**CAVOK** を用いる場合の視程の基準は規則 7 による。

4.2

視程予報値は次の通報区分に従う。

- (a) 5000m までは 100m 間隔。
- (b) 5000m～9999m は 1000m 間隔。
- (c) 10 km 以上は 9999 と報ずる。

5

w'w'  
又は  
NSW } 群—天気

## 5.1

重要な予報天気 w'w' は、以下の現象及び場合によっては強度に限り、天気略語表にある適切な略語を用いて報ずる。

- －着氷性の降水
- －並又は強い：降水（しゅう雨性降水を含む）
- －砂じん嵐（duststorm, sandstorm）
- －雷電
- －着氷性の霧
- －低い風じん（low drifting dust, low drifting sand）
- －高い風じん（blowing dust, blowing sand）
- －地ふぶき
- －スコール
- －ろうと雲（竜巻）
- －その他視程の重要な変化の原因になると予想される天気現象

## 5.2

重要な天気現象 w'w' が終息することを予報する場合は、w'w' に代えて略語 NSW（nil significant weather）を報ずる。

注：規則 8.2 参照。

## 5.3

**CAVOK** の条件の場合は、規則 7 を適用する。

## 6

N <sub>s</sub> N <sub>s</sub> N <sub>s</sub> h <sub>s</sub> h <sub>s</sub> h <sub>s</sub>	}	群一雲又は鉛直視程
又は		
<b>VV</b> h <sub>s</sub> h <sub>s</sub> h <sub>s</sub>		
又は		
<b>NSC</b>		

## 6.1

雲量及び雲底の高さ N<sub>s</sub>N<sub>s</sub>N<sub>s</sub>h<sub>s</sub>h<sub>s</sub>h<sub>s</sub>

雲量 1～2 オクタスを **FEW**（few：少しの）、3～4 オクタスを **SCT**（scattered：散在している）、5～7 オクタスを **BKN**（broken：隙間あり）、8 オクタスを **OVC**（overcast：全天を覆う）として N<sub>s</sub>N<sub>s</sub>N<sub>s</sub> に報じ、続けてスペースを置かずに雲層（雲塊）の底の高さを h<sub>s</sub>h<sub>s</sub>h<sub>s</sub> に報ずる。

## 6.2

規則 6.4 のどの雲の群においても N<sub>s</sub>N<sub>s</sub>N<sub>s</sub> には h<sub>s</sub>h<sub>s</sub>h<sub>s</sub> の高さに出現すると予想される雲の全雲量を報ずる。

## 6.3

雲の群は、異なる雲層又は雲塊を予報する場合は繰り返すが、積乱雲を予報する場合を除き 3 群を超えてはならない。

## 6.4

予報に用いる雲層又は雲塊の選択は以下の基準による。

第 1 群：雲量にかかわらず、最も低い雲層（雲塊）について、FEW, SCT, BKN, OVC のいずれかで報ずる。

第 2 群：第 1 群より上にあり、8 オクタスが 3 以上の雲層（雲塊）について、SCT, BKN, OVC のいずれかで報ずる。

第 3 群：第 2 群より上にあり、8 オクタスが 5 以上の雲層（雲塊）について、BKN 又は OVC で報ずる。

付加群：積乱雲（CB）が予報され、上記 3 群の中で報じられていない場合。  
雲の群は、雲底の高さの低い雲から順に報ずる。

## 6.5

雲層（又は雲塊）の底の高さの予報は、METAR/SPECI の第 1 表により報ずる。

## 6.6

積乱雲以外の雲形は通報しない。積乱雲が予想される場合は、雲の群に続けてスペースを置かずに略語 CB を付加する。雲底の高さが同じ積乱雲と塔状積雲を予想する場合は、雲量には積乱雲と塔状積雲の合計雲量を報じ、雲形は CB とする。

## 6.7

雲の情報を報ずるのは、運航上重要なもの、即ち 1500m (5000ft) , 又は最低扇形別高度の最大値の、いずれか高い方の値未満にある雲、あるいは積乱雲を予報する場合に限る。1500m (5000ft) 又は最低扇形別高度の最大値のいずれか高い値未満に雲がなく、積乱雲が予想されず、かつ CAVOK を適用することが適当でない場合は、略語 NSC (nil significant cloud) を報ずる。

## 6.8

鉛直視程 VVh<sub>s</sub>h<sub>s</sub>h<sub>s</sub>

天空不明と予想し、鉛直視程が入手できる場合は、N<sub>s</sub>N<sub>s</sub>N<sub>s</sub>h<sub>s</sub>h<sub>s</sub>h<sub>s</sub> 群の代わりに VVh<sub>s</sub>h<sub>s</sub>h<sub>s</sub> 群を用いる。鉛直視程 h<sub>s</sub>h<sub>s</sub>h<sub>s</sub> は、METAR/SPECI の第 1 表により報ずる。

注：鉛直視程は視程障害現象があるときの鉛直方向の視距離である。

## 6.9

CAVOK を用いる場合、雲の基準は規則 7 による。

## 7

### CAVOK

次の状態が同時に起こると予想される場合には、VVVV, w'w'及び N<sub>s</sub>N<sub>s</sub>N<sub>s</sub>h<sub>s</sub>h<sub>s</sub>h<sub>s</sub> 又は VVh<sub>s</sub>h<sub>s</sub>h<sub>s</sub> 群の代わりに CAVOK を報ずる。

(a) 卓越視程：10 km以上。

(b) 雲：1500m 又は最低扇形別高度の最大値のいずれか高い値未満に雲がなく、かつ積乱雲がない。

(c) 予報天気：天気略語表に該当する現象がない。

注：（1）その他、視界内の視程障害現象の扱いについては航空気象観測指針参照。

（2）最低扇形別高度は、AIP JAPAN に次のように定義されている。

航行用無線施設を中心とした半径 25 海里の円内の部分に含まれる区域に所在する全ての障害物件から、平野部については 300m (1000ft) , 山岳部については 600m (2000ft) の垂直間隔をもって設定した緊急時用の最低高度。

8

TTTTT YYGG/Y<sub>e</sub>Y<sub>e</sub>G<sub>e</sub>G<sub>e</sub> 群－変化群

8.1

この群は、Y<sub>1</sub>Y<sub>1</sub>G<sub>1</sub>G<sub>1</sub> から Y<sub>2</sub>Y<sub>2</sub>G<sub>2</sub>G<sub>2</sub> の期間に予報要素のいくつか又は全部がその期間内のある時刻 YYGG から Y<sub>e</sub>Y<sub>e</sub>G<sub>e</sub>G<sub>e</sub> の期間内に变化すると予想される場合に使用する。この群は、Y<sub>1</sub>Y<sub>1</sub>G<sub>1</sub>G<sub>1</sub> から Y<sub>2</sub>Y<sub>2</sub>G<sub>2</sub>G<sub>2</sub> までの期間内の必要な全予報要素を記述した後でなければ用いてはならない。

注：（１）予報期間の終了時刻が 00UTC (24UTC) の場合、Y<sub>e</sub>Y<sub>e</sub> を 00UTC の前日の日付とし、G<sub>e</sub>G<sub>e</sub> は 24 とする。

（２）変化群を含めるための基準は「航空気象予報業務実施要領」による。

8.2

TTTTT YYGG/Y<sub>e</sub>Y<sub>e</sub>G<sub>e</sub>G<sub>e</sub> 群は、気象状態が YYGG から Y<sub>e</sub>Y<sub>e</sub>G<sub>e</sub>G<sub>e</sub> の期間内に規則的に変化又はその期間内のある時刻に不規則に変化すると予想され、その後は変化後の状態が続くと予想される場合、BECMG YYGG/Y<sub>e</sub>Y<sub>e</sub>G<sub>e</sub>G<sub>e</sub> の型式で用いる。YYGG から Y<sub>e</sub>Y<sub>e</sub>G<sub>e</sub>G<sub>e</sub> の期間は原則として 2 時間以内とし、いかなる場合にも 4 時間以内とする。変化群の後には変化すると予想されるすべての要素を続ける。変化群に続く資料群に記述されていない要素は、規則 1.5 に従い Y<sub>1</sub>Y<sub>1</sub>G<sub>1</sub>G<sub>1</sub> から Y<sub>2</sub>Y<sub>2</sub>G<sub>2</sub>G<sub>2</sub> までの期間をとおしてその状態が継続すると考える。

注：BECMG YYGG/Y<sub>e</sub>Y<sub>e</sub>G<sub>e</sub>G<sub>e</sub> 群の後に記述する状態は、Y<sub>e</sub>Y<sub>e</sub>G<sub>e</sub>G<sub>e</sub> から Y<sub>2</sub>Y<sub>2</sub>G<sub>2</sub>G<sub>2</sub> までの期間に卓越すると予想される状態である。しかし更に変化が予想される場合には、新たな BECMG YYGG/Y<sub>e</sub>Y<sub>e</sub>G<sub>e</sub>G<sub>e</sub> 群を用いて報じなければならない。

8.3

TTTTT YYGG/Y<sub>e</sub>Y<sub>e</sub>G<sub>e</sub>G<sub>e</sub> 群は、気象状態の一時的変動が頻繁に又は時々発生し、それぞれの場合において 1 時間以上続かず、全体として YYGG/Y<sub>e</sub>Y<sub>e</sub>G<sub>e</sub>G<sub>e</sub> で示す予報期間の 1/2 未満であると予想される場合、TEMPO YYGG/Y<sub>e</sub>Y<sub>e</sub>G<sub>e</sub>G<sub>e</sub> の型式で用いる。

注：（１）変化すると予想した状態が 1 時間以上続く場合、規則 8.2 を適用する。

（２）あいまいさのない明確な予報を出すため、変化指示群を使う場合は慎重に考慮し、その使用を最低限に押さえるべきである。特に変化期間の重複は避けなければならない。

9

運航用飛行場予報の修正

9.1

運航用飛行場予報の修正は、TAF の代わりに TAF AMD を本文に前置して示し、もとの TAF の残りの予報期間に適用する。